

2023年6月27日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ・ビューティ専門学校
校長 本鍋田 あゆみ

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ・ビューティ専門学校 学校関係者評価委員会は2022年度（令和4年度）自己評価報告書に基づき学校関係者評価を実施しましたので以下の通り報告いたします。

1. 開催日時：2023年6月27日 13：00～15：30
2. 場 所：ミス・パリ・ビューティ専門学校
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	(株式会社sline (美容室サンベイス) 代表取締役) (日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)
宮腰 大司	(有限会社ヘアージェスト 代表取締役)
東 千晶	(株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
杉原 昭二	(学校法人ミスパリ学園理事、評議員)
須賀谷 映子	(NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
越川 治枝	(株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局	本鍋田 あゆみ (ミス・パリ・ビューティ専門学校 校長)
	川口 亜美 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 副校長)
	廣石 裕 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 課長)
	宇賀神 亜季 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 主任)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

授業アンケートでは英会話の授業がわかりづらいという意見が複数あった。日本語を話すことができない講師であった為、コミュニケーションがとりにくかったことが理由である。講師への改善要求と派遣会社へ次年度の担当講師の変更依頼を行った。次に、授業によって進度や技術指導に違いがあるという学生からの指摘があった。それぞれに関連する学生指導方法を統一、強化を図るために、ミー

ティングや技術手合わせを実施している。そして、授業アンケートに対するアクションを迅速に行うことができるように、集計表記をグラフ化ではなく、記述コメント中心の一覧表に変更した。

その他、アンケート実施方法の改善の一つとして、前年度解答率の低かった入学生保護者アンケートを、手書き用紙からWebアンケートに変更した結果、回答率が向上した。

委員より

学生による授業アンケートの評価点（数字）だけで、満足度や理解度をそのまま読み取ることができない。記述式の欄に書かれていることが、本当の意見だと考えられる。アンケートそのものが、サイレントマジョリティ化してしまわないように、気を付けていただきたい。その為には、記述式の設問を増やし、いかに多くの意見を正しく吸い上げられるかを検討し実施してほしい。

②自己評価点の理由

【現状】

次に挙げる4項目の評価点が上がった。

一つ目は、「地域社会への貢献の一環として学校施設を地元開放しているか」という項目で、学内サロンで外部のお客様の来店もあり、来店数が前年度より上がったことである。2022年度はトータルビューティ学科とマスター学科を合同でグループ制とし、サロン数を増やしたことで役割分担が明確になり学生が積極的に動いた。

二つ目は、「教務・財務の組織整備などの意思決定システムは整備されているか」という項目で、レジの入金方法の統一、経理処理依頼の方法、トータルビューティ学科における補講の申請と承認について制度化できたことである。

三つ目は、「インターンシップ等を利用して、職業選択について深く考える機会を提供できているか」という項目で、美容学科で初めて、インターンシップを実施することができたことである。

最後に、「施設・設備等の定期点検、補修等について適切に対応しているか」という項目で、故障などが見つかった際、すぐに推進課に報告し、その都度速やかに対応し点検・補修を行ったことである。

委員より

常に学生目線を気にしながら、学校運営を行っていかなくてはならないと考える。その基本となる各種アンケートの実施方法において、各校にばらつきがないよう、再度すり合わせを行い、同一目線での比較ができるようにしてほしい。

③重点的に取り組む施策

【現状】

問題点を2つ挙げている。

一つ目は進級率についてである。2022年度はトータルビューティ学科も美容学科も下がっている。退学者の理由をまとめると「やる気の低下」が挙げられる。それぞれ要因は様々だが、客観的に考えると我々教職員が、学生の本音を聴くことができていなかったのではないかと捉えている。そして、その学生の気持ちを支え、進級率を改善するには、次の3つのポイントが必要だと考えている。

一つ目のポイントは、クラス運営の意識を変えるということ。「学ぶことが楽しい」と学生が思える

指導、授業を行うことが必要になる。更に担任主導の元、学生のレベルアップを目指す指導教育を行い、他の教員がフォローに回る体制を強化している。また、保護者会にて出席と体調管理の大切さを強く伝えたことでゴールデンウィーク明けまで欠席者がいないという変化が得られた。そして入学後もコミュニケーション研修を実施し、少数の仲間作りから始め、徐々にグループでのコミュニケーションを取れるようにした。

二つ目のポイントは、フォロー体制を強化することである。精神的なフォローアップとしては、ノートを活用した学生の悩み相談への対応、技術的なフォローアップは、放課後を効率良く使い実施している。さらに、フォローアップが成功した学生の声を参考に他の学生の対応を行う。

三つ目のポイントとして講師のレベルアップが必要だと考える。具体的には、講師の教育に対する意識の向上や、話し方及び技術の指導方法の工夫をすることであり、2023年の職員研修でも行う予定である。

次に、重点的に取り組むもう一つの問題点は、学生募集の定員達成である。達成するにはガイダンスからの来校率を上げる必要がある。新規来校者を増やす施策として、体験イベントに工夫を加える。本学の学びの理解を深めることを目的とした学科説明会を、体験後に行うようにしている。上級エステティック学科については、HP上の広報を行っているが、数名の来校となり、可能な方にはTB学科をお勧めしているのが現状である。社会人対象のコースがあることで興味を持ち、資料請求があることには一定の学生募集効果があると考えており、その資料請求者には専用のチラシを送っている。

次に、エステティックマスター学科の定員充足については、入学前から当学科の存在を周知させることと入学直後の説明会で改めて伝えていく。更に講師アシスタントを6月からスタートさせ、学内サロンをトータルビューティ学科の進学予定者とグループになって実施するなど、細かい計画と打ち合わせを進め、定員の確保を図る。

委員より

美容室においても「やる気が低下」をして離職をしまう場合がある。長く続く人は、必ずしっかりと目標を持っている。その目標に向かって逆算の考え方をし、目標に到達する取り組み方ができる人は、いつでもテンションが下がらず前向きに仕事をしている。漠然と仕事をしている人は伸びない。是非、学生にも目標を持たせるように指導をしてほしい。

.....

5. 全体総括

自己評価や学生アンケートの実施方法を見直し、全校が足並みをそろえる良い機会となった委員会であった。そして、他校の取り組みも改めて知ることができ、参考になることが多かった。学校関係者評価委員よりご指摘を頂戴した通り、アンケートの実施目的を明確にすること、回答者の本音が把握できるようにすることなど、その実施方法の構築が必要だと感じた。今年度は数字だけでは測れない学生の声を聴き、特に進級率、卒業率の改善向上を図りたいと考えている。また、同様に高校生の声を聴き、学生募集の定員達成を成し遂げたい。

以上